

### 1. 実況上の着目点

- ① 前線が、華中～九州～東海道沖～日本の東にのびており、500hPa 5760m付近のトラフが華北付近を東進。前線近傍の西日本では局地的に激しい雨や非常に激しい雨を解析している所がある。また、前線北側ではやや強い風が吹き、東日本太平洋側を中心に台風第23号から変わった低気圧からのうねりの影響も加わり、波が高くなっている所がある。
- ② 低気圧が千島の東を東北東へ進んでいる。前線が低気圧から千島近海にのびており、北海道地方ではやや強い風の吹いている所がある。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、17日にかけて深まりながら日本海や東～北日本を通過して日本の東へ進む。これと対応して、15日は西日本の前線がゆっくり北上し、16日朝までに前線上の日本海に低気圧が発生して東進する。低気圧は、16日夜にかけて東日本を通過して発達しながら日本の東へ進み、17日は日本の東から日本のはるか東へ進んで閉塞する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本では16日にかけて、北日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。低気圧や前線の北側を中心にやや強い風や強い風が吹き、東日本太平洋側を中心に1項①のうねりの影響も加わり波が高くなりしける所がある。東日本では17日にかけて、北日本では16～17日は、強風や高波に注意。
- ② 500hPa 5880m以上の帯状の高気圧が、華南～日本の南～南鳥島近海にほとんど停滞。地上では高気圧は不明瞭だが、北緯30度以南は東よりの風の場合が続き、下層暖湿気が流入して大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では17日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ③ 15日夜までに、500hPa 5520～5700mのリッジに対応する高気圧が北海道付近で顕在化し、17日にかけて日本の東から日本のはるか東に移動する。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間): 四国120、東北・北陸・東海・近畿100mm。  
 ② 波浪(明日まで): 伊豆諸島4、東北・関東・東海3m。  
 ③ 高潮(明日まで): 東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。